

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2293100026		
法人名	株式会社 オアシス		
事業所名	グループホーム オアシス中之郷		
所在地	静岡県富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2293100026-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2293100026-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年3月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員は入居者様の生活パターンを把握し、ペースに合わせ寄り添い明るく接しています。毎日の散歩のレクリエーションの他に月に2回の以上イベントを加え、季節に応じた遠出外出・手作り弁当や外食を企画しています。ご家族様の来訪も頻繁にあり、ホームの信頼関係が築けていると思います。地域の方々も、ボランティアで来所してくださり、開けたホームになっていると思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、富士山がよく見え周りには木々が生茂り、幹線道路から入り車通りが少ない環境のため、体調が良い入居者は天気が良ければ毎日午前中に散歩に出ている。季節ごと家族に声を掛け一緒に出かける等イベントは月2回以上行われている。家族の訪問は多く、近所の人々も頻りに訪れてくれる地域密着の施設である。管理者と職員は日々の入居者の様子の情報が良く共有されている。職員は男女の人数が約半々で年齢層に幅があるため、入居者には刺激になっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気大切に、個々の生きがいを大切に、個人の尊厳を大切に、この3つを理念とし「尊厳を支えるケア」をめざして、思いやりの心を大切に 利用者様をお迎えしています。	毎朝全員で申し送りの時に唱和している。入居者も一緒に声をだしている。理念は目についたる所に掲示してある。ホーム会議、リーダー会議等に理念について確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム前の掲示板にイベントポスターの貼り出し地域の方々へ参加の呼びかけや、地域の方が楽器演奏、手品など行っくたさり交流している。地域行事の参加。介護相談員来訪。	事業所前の掲示板に情報を発信し、行事へ地域の人の参加がある。散歩時には挨拶を交わし顔馴染みになっていて、入居者が外へ出た時の協力体制ができています。野菜やみかん等の差し入れがある。学校帰りの子がトイレによるなど地域住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験の受け入れ、看護学生の実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、地域の方々に運営報告、イベント報告と予定 情報交換しサービスの向上に繋げている。	2ヶ月に一回定期的に開催し、市、包括支援センター職員、介護相談員、入居者家族、入居者が出席し、事業所の報告の後、参加者から意見を聞いている。報告書を全職員が見て確認している。自治会長や民生委員は次回からは参加予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報を頂きながら連携をとり、協力関係を築くように努めている。	グループホーム連絡会や交流会に参加している。法改正時には市の説明会へ参加、わからないことは電話や、運営推進会議後に聞いている。市は親切に教えてくれ連携がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての内部研修の開催。スピーチロック等をしないように、書面を配布し職員自ら気づきとなるように取り組みました。	マニュアルがある。管理者は研修会に参加し、資料を職員に渡し、内容の研修をしている。新職員にリーダーが夜勤までの一日を教育し入居者の見守り対応の方法を指導している。スピーチロックは職員同志で注意しあっている。	入居者は信頼関係が出来てきても、職員の態度に敏感に反応するので、常にゆったり、穏やかな対応で入居者に抑圧感を招かないように過ごしてもらうことを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	資料の活用、外部の情報をホーム会議、朝の申し送り等で報告し、虐待防止に努めている。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のあるものには関係機関と連携を持ち、支援していくように努めている。キャラバンメイトの研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族への十分な説明を行い、家族内での困難な状況も解決の糸口になるよう話し合い、疑問点等も納得いくまで話し合う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がいつでも意見を言えるよう、相談窓口を設置し、運営に反映させている。ご家族様、来所時に管理者または、各担当者より、ご家族へ要望など聞いている。	相談窓口や意見箱はあるが、家族の訪問が多く訪問時に意見を出してくれる。散歩の頻度を増やしてほしいとの要望があり体調の許す限り増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、フローカンファレンスや日々の勤務の中でいつでもリーダー、ホーム長、管理者、代表へと発言でき反映させている。	職員は向上心があり自主的に研修に参加しているため気づきが多い。シフトの調整や畑や庭の手入れ、消耗品の買い出し等意見を出し管理者に協力的である。今後個人面談を考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の個々の能力を把握し、各自が向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修等、パートも社員ももう力に応じて研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会参加、連絡会など他機関等情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ホームの設備、雰囲気等体験して頂き、ここでの要望、希望などお伺いして共感的理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、リーダー、ケアマネは各分野での不安や疑問等お答えできるように、同席し話し合いの場を設け傾聴し説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を確認し、求めているサービスに繋がる対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員がお互いに平等かつ尊重しあえる環境づくりを築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係を大切にし、家族等の役割が保てるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベント等頻繁にある為、入居者様の知り合いや友人ということもあり、関係者との交流がいつでも出来るよう努めている。ホーム来訪もいつでも出来るようになっている。	家族や友人、親戚関係が多く訪れている。近所の顔見知りの方が、お話、イベント等ボランティアで訪問している。墓参り等家族が連れて行っている。また行楽で季節ごと馴染みの場所を遠足で訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立する事のないようにカンファレンス、日々の申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も行事の呼びかけや相談の対応も行っている。毎月、担当者よりお手紙を送らせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で1人1人の希望の確認、把握し、時にはご家族様の協力を仰ぎながら支援している。	入居者には担当がいて、申し送りやカンファレンスでの職員全員の気づきをまとめている。入居者で「毎年家族と奈良の正倉院へ行っていた。」との話に、職員同行で家族と日帰り計画を立て実行し喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族様、知人、ケアマネ、医療等と連携をとり、暮らし方や過去のサービス内容を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、チームで検討しながら現状の把握に努めている。毎朝のバイタルチェックは職員が行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や入居者様、ケアマネ、担当者とカンファレンスを行って意見を出し合い介護計画に反映させている。	家族や主治医、訪問看護師、ケアマネジャーと担当職員で意見を出し合って作成し、その内容を全職員でカンファレンス会議にて確認し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、支援日誌や看・介護記録などを記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様の要望を月のイベントやレク、嗜好品、医療連携等の柔軟な支援をしている。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの機関と連携をとり、支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診。入居者様や御家族様の希望を大切に、納得して適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医へは家族が対応している。口頭でホームでの様子や薬の不足を伝え、家族から報告を受け、個人のファイルに記入し全職員がチェックしている。特に薬の誤飲は複数のチェックで注意している。協力医の月2回の往診は、往診記録をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師の来所。現状報告や記録を記録し、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との情報交換や訪問して、常に連携をとれるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の在り方について家族等の話し合い職員、かかりつけ医、管理者、代表で、方針を共有し支援している。	マニュアルがあり看護師が来て勉強会を行なっているが、全職員の対応はまだできない。以前看取りを家族の泊まりの協力で経験している。契約時、方針を説明し同意を得ていて、終末期は対応を協力医と家族との話し合いで決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部内部研修等で対応の知識を得ている。また、事故報告書、ヒヤリハットを基にチームで対策を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、参加できなかった職員も把握できるように防災委員会よりホーム会議で報告している。夜間の避難訓練の予定もしている。	防災訓練は地震、火災を想定して、2階から布団を使って降ろす訓練を行ったり、消防署が来て機器の使い方と消火器の使い方の訓練を行なった。地域の防災訓練へは入居者と参加しているが、事業所の訓練では地域の人の協力は受けていない。備蓄は確保されている。	消防署から指示を受けたように、地域の協力は大変力強い物になるので、防災訓練には地域の参加が望まれる。また、夜間等あらゆる想定での訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の情報は、職員全員で共有しているが、個人情報の取り扱いには十分注意している。	言葉掛けの内部研修を行っていて、職員同士気がついた時点で注意しあっている。呼び名は基本的には「さん」で旧姓で呼んでいる人もいる。個人情報管理には気をつけ、写真掲載は入居の際同意書を得ていて拒否者はチェックして載せない工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の表現方法や意思表示の方法を把握し、返答しやすい問いかけで、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を尊重しながら、個々のペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望をお聞きし、御家族様とも相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様と共に食事し、入居者様の能力に応じて準備や片づけに参加して頂いている。	献立は法人の栄養士が作成して、職員も同じ食事をし、魚の骨を取る気配りをしている。入居者は味について話したり、準備や後片づけをしている。水分量をチェックし、不足がちな入居者には夏はゼリー、緑茶、コーヒー、紅茶、牛乳と変化をつけて対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量やバランス、水分量も確保できるよう支援している。状態により、個別で水分量チェックシートを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に応じた口腔ケアを行っている。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。全員布パンツでの生活をしている。	入居時リハビリパンツやオムツが当たり前状態だったが、カンファレンスを重ね、今では全員布パンツになっている。失禁が分らないように、またトイレ拒否者には、サインを見逃さないようトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時のおやつは、ヨーグルトにオリゴ糖プラス果物提供している。食事でも繊維の豊富なデザートや、レクでの運動を予防に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から入浴時間帯ですが、希望があれば夜間や曜日に関係なく入浴している。	週2回から3回のペースで、自立度の高い入居者は希望時間に入浴可能で、状態により2人体制で介助している。ゆず湯や入浴剤を使用したり、木酢液、竹酢液を使用し白癬に効果がでている。同性介助も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを配慮しつつ、その時の状況に応じて個々の意向を尊重したケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者、薬委員会を中心に使用しているお薬の用法や用量、副作用について理解しており、服薬の支援や症状の変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現状を基に、得意なことや向いていることお一人お一人が役割をもち、活躍できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブにでかけたり、催し等で外出することが多い。	天気が良ければ、近くの神社に散歩に出かけている。季節によって散歩コースを変え、気分転換を図っている。地域の人が一緒に歩くこともある。買い物に出かけたり、同法人のデイサービスへは良く見学に行っている。	



静岡県(グループホームオアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な範囲で自己管理されている方もおりますし、ホームでお預かりしている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意向を確認し、入居者様の思いを大切に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には花がいくつも飾られており、裏庭には畑で採れた野菜の収穫をしており、季節感を感じて頂いている。花見、紅葉ドライブなど季節の行事や 季節に応じたの飾り付けを工夫している。	玄関に雛飾りと季節の花が置かれ、月担当者が入居者と一緒に壁面工作を作成し飾ってある。摘んできたつしが挿してある。廊下は木で毎日拭き掃除をしている。竹墨を床下に敷いてあるので、保温と防臭に効果がある。テレビの音量は職員が判断し対応する。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が思い思いの場所で過ごして頂き、雑談やレクを楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で本人が使用していた物を持ち込んだり、今までの生活を続けて頂けるように、本人やご家族様と話し合い工夫している。	自宅から持ち込んだ家具、調度品が入居者や家族の意向に沿って配置よく置かれ、居心地が良くなるようにしている。各部屋とも日当たりが良いため、換気を兼ね窓に布団干しをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖や歩行器がなくても安全・安心して移動できるように職員は寄り添い 手すりや、プレートをつけたりなど、支援している。状況に応じて個別な支援をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	株式会社 オアシス		
事業所名	グループホーム オアシス中之郷		
所在地	静岡県富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2293100026-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2293100026-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者様の生活パターンを把握し、ペースに合わせ寄り添い明るく接しています。毎日の散歩のレクリエーションの他に月に2回の以上イベントを加え、季節に応じた遠出外出・手作り弁当や外食を企画しています。ご家族様の来訪も頻繁にあり、ホームの信頼関係が築けていると思います。地域の方々も、ボランティアで来所してくださり、開けたホームになっていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気大切に、個々の生きがい大切に、個人の尊厳大切に、この3つを理念とし「尊厳を支えるケア」をめざして、思いやりの心を大切に 利用者様をお迎えしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ホーム前の掲示板にイベントポスターの貼り出し地域の方々へ参加の呼びかけや、地域の方が楽器演奏、手品など行ったださり交流している。地域行事の参加。介護相談員来訪。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験の受け入れ、看護学生の実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、地域の方々に運営報告、イベント報告と予定 情報交換しサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報を頂きながら連携をとり、協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての内部研修の開催。スピーチロック等をしないように、書面を配布し職員自ら気づきとなるよう取り組みました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料の活用、外部の情報をホーム会議、朝の申し送り等で報告し、虐待防止に努めている。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のあるものには関係機関と連携を持ち、支援していくように努めている。キャラバンメイトの研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族への十分な説明を行い、家族内での困難な状況も解決の糸口になるよう話し合い、疑問点等も納得いくまで話し合う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がいつも意見を言えるよう、相談窓口を設置し、運営に反映させている。ご家族様、来所時に管理者または、各担当者より、ご家族へ要望など聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、フロアーカンファレンスや日々の勤務の中でいつでもリーダー、ホーム長、管理者、代表へと発言でき反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の個々の能力を把握し、各自が向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修等、パートも社員ももう力に応じて研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会参加、連絡会など他機関等情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ホームの設備、雰囲気等体験して頂き、ここでの要望、希望などお伺いして共感的理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、リーダー、ケアマネは各分野での不安や疑問等お答えできるように、同席し話し合いの場を設け傾聴し説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を確認し、求めているサービスに繋がる対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員がお互いに平等かつ尊重しあえる環境づくりを築いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係を大切に、家族等の役割が保てるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベント等頻繁にある為、入居者様の知り合いや友人ということもあり、関係者との交流がいつでも出来るよう努めている。ホーム来訪もいつでも出来るようになっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立する事のないようにカンファレンス、日々の申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も行事の呼びかけや相談の対応も行っている。毎月、担当者よりお手紙を送らせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で1人1人の希望の確認、把握し、時にはご家族様の協力を仰ぎながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族様、知人、ケアマネ、医療等と連携をとり、暮らし方や過去のサービス内容を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、チームで検討しながら現状の把握に努めている。毎朝のバイタルチェックは職員が行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や入居者様、ケアマネ、担当者とカンファレンスを行って意見を出し合い介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、支援日誌や看・介護記録などを記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様の要望を月のイベントやレク、嗜好品、医療連携等の柔軟な支援をしている。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの機関と連携をとり、支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診。入居者様や御家族様の希望を大切にし、納得して適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師の来所。現状報告や記録を記録し、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との情報交換や訪問して、常に連携をとれるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の在り方について家族等の話し合い職員、かかりつけ医、管理者、代表で、方針を共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部内部研修等で対応の知識を得ている。また、事故報告書、ヒヤリハットを基にチームで対策を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、参加できなかった職員も把握できるように防災委員会よりホーム会議で報告している。夜間の避難訓練の予定もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の情報は、職員全員で共有しているが、個人情報の取り扱いには十分注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の表現方法や意思表示の方法を把握し、返答しやすい問いかけで、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を尊重しながら、個々のペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望をお聞きし、御家族様とも相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様と共に食事し、入居者様の能力に応じて準備や片づけに参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量やバランス、水分量も確保できるよう支援している。状態により、個別で水分量チェックシートを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に応じた口腔ケアを行っている。		



静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握していてトイレでの排泄を支援している。全員布パンツでの生活をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時のおやつは、ヨーグルトにオリゴ糖プラス果物提供している。食事でも繊維の豊富なデザートや、レクでの運動を予防に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から入浴時間帯ですが、希望があれば夜間や曜日に関係なく入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを配慮しつつ、その時の状況に応じて個々の意向を尊重したケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者、薬委員会を中心に使用しているお薬の用法や用量、副作用について理解しており、服薬の支援や症状の変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現状を基に、得意なことや向いていることお一人お一人が役割をもち、活躍できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブにでかけたり、催し等で外出することが多い。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な範囲で自己管理されている方もおりますし、ホームでお預かりしている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意向を確認し、入居者様の思いを大切に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には花がいくつも飾られており、裏庭には畑で採れた野菜の収穫をされており、季節感を感じて頂いている。花見、紅葉ドライブなど季節の行事や 季節に応じたの飾り付けを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が思い思いの場所で過ごして頂き、雑談やレクを楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で本人が使用していた物を持ち込んだり、これまでの生活を続けて頂けるように、本人やご家族様よ話し合い工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖や歩行器がなくても安全・安心して移動できるように職員は寄り添い 手すりや、プレートをつけたりなど、支援している。状況に応じて個別な支援をしている。		